様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月　４ 日現在

機関番号：１４５０１
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｈ０２３３０

研究課題名（和文）20世紀前半期ドイツにおける住宅政策の理念と実践及びその日本への影響に関する研究

研究課題名（英文）A Study of the Philosophy and Practice of Housing Policy in Germany in the First Half of the 20th Century and Its Influence on Japan

研究代表者
中江　研（Nakae, Ken）

神戸大学・工学研究科・教授

研究者番号：４０３２４９３３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　12,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は20世紀前半期ドイツにおける労働者向けの大量の住宅供給に関して、実践としての住宅建設、それをもたらした住宅政策、その背景としての思想・思潮の史的連環について、また、ドイツの動向の日本への影響について明らかにしようとするものである。ドイツの郷土保護運動において、すでに20世紀初頭に、単にイデオロギーとして伝統的景観の保護を訴えるだけでなく、茅葺き屋根の改良という技術的な視点をともなった活動がなされていたこと、第二次大戦下の日本における住居政策の立案においては、同潤会内に調査課が設置され、海外政策に関する資料の収集や翻訳が組織的に実施されたことが基盤となっていたことなどが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
近代の建築史・住宅史・都市史において、各国で労働者向けの住宅供給がどのように進展したかは重要な研究主題である。法令、政策、実際に建設されたもの、設計案などさまざまな様態で立ち現れる「住宅」は、社会や経済、政治の動向に大きく揺さぶられる。そうした「住宅」に反映された携わる人々の思想や信条から、近代社会の考察を行う。

研究成果の概要（英文）：This research discusses the historical linkage between housing construction, the housing policy that brought it about, and the ideology and thought behind it, regarding the massive supply of housing for workers in Germany in the first half of the 20th century. It also attempts to clarify the influence of such German trends on Japan.
In the German “Heimatschutzbewegung”, homeland conservation movement in the early 20th century, it was found that the movement not only appealed for the conservation of traditional landscapes as an ideology, but also included technical aspects such as the improvement of thatched roofs. In addition, the planning of housing policy in Japan during World War II was based on the establishment of a research section within the Dojun-kai, which systematically collected and translated materials on housing policy in Europe and the United States.

研究分野：近代建築史

キーワード：労働者住宅　産業都市　住宅改良　住宅政策　住居法　ジードルンク　社会住宅　近代建築

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

1918-33 年のワイマール期は第一次世界大戦の被害による住宅不足と、労働者の劣悪な住環境が大きな問題となり、国策として大量の住宅供給を行い、多くの提案や実験的な建設が行われた。そのなかでベルリンの 6 つのジードルンクはユネスコの世界遺産ともなっている。その世界遺産登録における評価点は次のように説明される。「低所得者層の住宅と生活環境を改善することを目的とした、革新的な住宅供給政策の賜物である。政策の中心を担ったのは、ブルーノ・タウト、マルティン・ヴァグナー、ヴァルター・グロピウスら一流の建築家であった。新しい都市計画、建築手法、庭園設計を通して建設された住宅には、浴室、調理場、ロッジア、日当たりの良いバルコニーが備えられた。当時のベルリンがいかに社会的、政治的、文化的に斬新だったかを示す住宅であり、世界中の公共住宅の発展に多大な影響を及ぼした」そして、①政治的、社会的、文化的および技術的な進歩性を特徴とするワイマール期に実行された住宅政策を顕著に示すものであり、②住居と生活条件を改善するために決定的な貢献をした広範な住宅改革運動の優れた表現であり、③20 世紀初期のモダニズムに典型的な都市計画、建築、庭園デザイン、審美的な探求、そして新しい衛生的な社会的基準の適用を最高水準で反映されたものであり、それらのデザインの質は、当時開発された住宅基準と同様に、ドイツ国内外の社会住宅のガイドラインとなったとされる。

しかしながら、近代のジードルンクの研究状況をみると、例えば J.ハスペル、A.イェッギ『近代ベルリンのジードルンク』(2007)や N.フーセ『20 世紀から今日のジードルンク』(1984)など、建築史分野で書かれた書籍では、上記の「新しい都市計画、建築手法、庭園設計」について詳しく記されるものの、それを生み出したはずの住宅政策については十分な記述がみられない。

一方で、政治社会史の立場で住宅問題を論じた後藤俊明の視角は示唆に富む。フランクフルト市の住宅供給政策を分析すると、同市が供給した住戸では 1920 年代半ばに建設されたものに比べ、20 年代末のものは、住戸面積に対して室数が増加している。また全 1522 戸中 1450 戸(95%)が 3 室住戸となっている。後藤がこの転換の要因の一つに挙げるのが、1927 年の『全国住宅統計調査』である。この調査の結果、フランクフルト市では、世帯総数の 12%、16 千世帯弱が独自の住宅を持たない間借り世帯であった。これは公的住宅供給が本来ターゲットとした低収入世帯ではなく、余裕のある階層に対してのものとなっていたことを意味した。それによって同市は方針を転換し、供給する住宅の規模を縮小していたのである。

また、日本で住宅政策が確立したとされる戦中期（日中戦争-太平洋戦争）において、政策や具体的な実践において重要な参照元となったのがドイツであった。前述のジードルンクの世界遺産登録で「ドイツ国内外の社会住宅のガイドラインとなった」と評価されているが、日本もまたこれに当てはまる。そしてそれはデザインよりもむしろ「当時開発された住宅基準」をもたらした住宅政策であった。戦中期においては満州事変後の住宅問題の深刻化を受け、建築学会や同潤会で海外の住宅政策への関心が高まる。これは海外法制の抄録などの形で表れ、太平洋戦争の開戦間際には住宅問題委員会や住宅制度調査委員会といった組織的活動へと移行する。こうした状況下で常に主要な参照元の一つとしてドイツ法制が研究されていた。

２．研究の目的

本研究は、20 世紀前半期ドイツにおける労働者向けの大量の住宅供給に関して、実践としての住宅建設、それをもたらした住宅政策、その背景としての思想・思潮の史的連環を明らかにすることを目的とする。また、日本の住宅政策はドイツのどのような点を参照したのか、その解明も併せて本研究の目的とする。これらにより、日独を対象に、主に欧州で先行して形成された近代の先駆的な住宅政策と住宅観、そしてその背後にある思想・思潮の日本への伝播の状況を検証する。

３．研究の方法

本研究では、1918-33 年のワイマール期を中心に前後の第二帝政期、ナチス政権期を対象として、住宅政策とその直近の実践を詳細に分析し、建築家が実践した住戸、住棟、住宅地の計画・設計に対して、どのような政策的な誘導や圧力があったのか、またその政策の背景にはどのような思想・思潮あるいは政治的利害が作用していたのか、また日本はドイツの住宅供給の状況からどのような情報を摂取したのかを、当時の文献資料や公的記録、現地調査から分析・考察する。

４．研究成果

本研究期間中、コロナ禍によりドイツでの調査が制限されたため、ドイツにおける住宅供給の実践や政策、思想・思潮の日本への伝播状況を主たる分析対象として研究を進めた。

１）ドイツの郷土保護運動とその住居形態への影響

1920 年代のドイツのジードルンクの建設において、ヴァルター・グロピウスら前衛的な建築家たちが陸屋根を用いたキュービックな住居形態を志向する一方、パウル・シュルツェ＝ナウムブルクら保守的な建築家たちが勾配屋根を用いた伝統的な住居形態を志向し、両者がグループ

を形成して対立していたこと、いわゆる「屋根論争」があったことが知られている。後者はドイツの郷土保護運動を推進したが、伝統的な住居形態を保全する動きがいつ、どのように生じたかについて、分析を進めた。本研究を進める中で、19 世紀末から 20 世紀初頭にドイツ北部メクレンブルクの農民のゲルネンツという人物が、石膏、水、粘土等の混合水に藁を含浸させたもので屋根を葺く耐火茅葺き屋根を開発していたという資料が見出された。この耐火茅葺き屋根については、複数回の実証試験が行われている。そして、茅葺き屋根の保全に寄与する耐火茅葺き屋根の開発をシュルツェ＝ナウムブルクが設立したドイツ郷土保護連盟は評価していたことも把握された。当時、茅葺き屋根についてはネズミやテンなどの動物が穴を空ける害獣対策、そして火災対策の必要性が認識されていた。これはつまり、対策ができない場合は、瓦葺きなどの異なる屋根形態に置き換わり、伝統的な景観が失われていくことを意味する。郷土保護運動においては、すでに 20 世紀初頭に、単にイデオロギーとしてドイツの伝統的な景観を保護することを訴えるだけでなく、茅葺き屋根の改良という技術的な視点をともなって活動を行っていたことが把握された。

２）同潤会における海外の住宅法制調査研究

同潤会住宅制度調査委員会は、日本が戦時下にあった 1939(昭和 14)年度から 1940(昭和 15)年度にかけて、同潤会内で住宅政策に関する調査立案活動を行っていた組織である。同委員会は住宅政策に関する統一法である住居法の立案にあたった委員会として知られており、その活動で得られた住居法の素案の先進性や重要性がこれまでにも指摘されてきた。一方、こうした調査立案活動がなぜ同潤会で進められたのかについてはこれまで触れられてこなかった。そこで、同潤会において住宅政策に関する調査がいかに進展し、また何を契機に住宅制度調査委員会による活動へと至ったのか、分析を行った。調査活動の進展に際しては、主に三つの出来事が重要であったと考えられる。

一点目として、1930(昭和 5)年に同潤会内に調査課が設置されたことが挙げられる。その設置は直接的には住宅政策に関する調査の実施には結びつかなかったが、住宅供給組織としてスタートした同潤会に調査セクションが置かれたことが、後に本格的な住宅政策の調査が同潤会内で行われる遠因となったと考えられる。また、戦時期において住宅政策に関する調査活動の中心的役割を果たした乾真介が同課の課長に据えられたことも重要であった。

二点目として、1934(昭和 9)年度の「小住宅の建築維持に関する調査研究」の開始が挙げられる。この一連の調査活動においても、序盤から中盤にかけては住宅政策に関する調査は見られない。しかし、1937(昭和 12)年度の「21．欧米の小住宅に関する政策一般調査」では、同潤会で初めて海外政策に関する資料の収集や翻訳が組織的に実施されている。「小住宅の建築維持に関する調査研究」の重要性は、同潤会が従来携わってきた住宅建設事業を補助するための調査だけではなく、多種多様な調査研究が実施された点にある。また、「小住宅の建築維持に関する調査研究」では各委託調査に対する補助が実施されていたが、この補助制度が住宅制度調査委員会の設置の際にも利用されることとなった。

三点目として、1939(昭和 14)年度から 1940(昭和 15)年度頃に、厚生省を中心した政府内で住宅政策を樹立しようとする動きが本格化したことが挙げられる。しかしながら、当時、厚生省には立案作業に先立つ調査活動を行う組織が十分に整備されていなかったため、住宅政策に関する調査活動を先行的に実施していた同潤会に住宅制度調査委員会が設けられたのである。

従来、住宅制度調査委員会は政策史的見地から評価され、同委員会が施策立案に対して果たした役割の重要性が指摘されてきた。この視点に立てば、住宅制度調査委員会とは、あくまで施策を立案するために組織された有識者委員会の一つであったと言ってよいであろう。本研究では、同委員会が同潤会の内部に組織された意味を問い直し、同潤会の一連の調査活動の成果を継承した委員会であったことを示した。これにより、当時立案された住居法の素案は、戦時の政治力学を受けて作成されたものであったと同時に、当時の研究者たちの住宅政策に関する理解が深化する中で、その産物として作成されたものであったことが明らかになった。

３）西山夘三をはじめとする dezam（デザム）によるドイツの建築専門書籍の参照状況

日本における欧州の住宅建築に関する情報摂取の動向の一つとして、京都帝国大学建築学科 1930 年度入学者によって結成された団体 dezam（デザム、1930-1933）の活動に着目した。これには学生時代の西山夘三が主要メンバーとして加わっていた。dezam は東京の学生建築研究会に加盟するとともに展覧会へ出品し、その出品物の共同制作にあたって海外住宅事情の調査研究を行っている。この調査研究では、米独仏露の建築専門雑誌に加え、複数のドイツの建築専門書籍が参照されており、ここにドイツからの情報摂取が多かったこと、特に、ルートヴィッヒ・ ヒルベルザイマーやアレクサンダー・クラインらの論考などが題材として扱われていたこと等が把握された。こうした調査研究を踏まえて dezam は「日本の工業都市に建つ共同住宅」という題で、理想的ながらも、構造計算まで行った実現可能性のある計画を発表した。各住戸の平面計画についてはクラインによる平面分析の理論を応用するなど、事前の調査研究が大いに活用された。また展覧会に際して dezam が独自に制作したパンフレットには、出品した計画内容とヒルベルザイマー『大都市建築』(1927)の住宅に関する部分の日本語訳が収録された。さらに、西山の記述によれば、1932 年 5 月に、西山は川喜田煉七郎から CIAM 第 4 回会議への報告書制作の依頼を受け、これに dezam として応えることになった。しかしながら、モスクワで開催予定であった

第 4 回 CIAM は延期されたため、dezam の成果が海外に向けて発表されることはなかった。こうした影響関係等が明らかになった。

４）山田守による建築学会パンフレット『ジードルンク』とその参考文献

建築学会を通じて発表された調査研究の一つである山田守著『ジードルンク』(1933) に関して、これまでの収集資料を基に追加調査を行うとともに、どのような海外の雑誌記事・図書が参照されていたかの分析を進めた。従来、同書で用いられた参考文献については、山田のドイツ渡航時に入手したものと考えられていたが、刊行時期が帰国後のものも含まれていることが把握された。また、近代建築史・住宅史上で重要な国際会議である CIAM（近代建築国際会議）第 3 回会議の報告書である『合理的建築方法（Rationelle Bauweisen)』および International Housing Association が 1931 年にベルリンで開催した国際住居会議(Internationale Wohnungs-Kongress) の報告書も参照していた。こうしたことから、山田は最新の国際的なジードルンクの建設状況について、かなり広範に目を配り、そのなかで情報を取捨選択して日本に紹介していることが把握された。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計32件（うち査読付論文　6件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　6件）

１．著者名 藤原 美菜子,中江 研,山本 一貴	４．巻 30
２．論文標題 洪洋社刊『世界建築 様式図解』に関する基礎的研究 その１：書誌情報について	５．発行年 2024年
３．雑誌名 日本建築学会技術報告集	６．最初と最後の頁 450-455
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3130/aijt.30.450	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 山本 一貴,中江 研	４．巻 2023
２．論文標題 山田守によるジードルンクに関する論考とその典拠： 欧米出張から『ジードルンク』の刊行までを中心に	５．発行年 2023年
３．雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集 建築歴史・意匠	６．最初と最後の頁 447-448
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 竹本 真,中江 研	４．巻 2023
２．論文標題 プロイセン下院による1907年「村落及び風光明媚な地域の外観の醜悪化に対する法律」審議へのP.ナウムブルクの関与について	５．発行年 2023年
３．雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集 建築歴史・意匠	６．最初と最後の頁 249-250
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 竹本 真,中江 研	４．巻 63
２．論文標題 20世紀初頭のドイツにおける街並みの美的観点に関する法規制について－1902 年施行「風光明媚な地域の外観の醜悪化に対する法律」に着目して－	５．発行年 2023年
３．雑誌名 日本建築学会近畿支部研究報告集．計画系	６．最初と最後の頁 305-308
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 清水 理佳,中江 研,堀内 啓佑	4．巻 63
2．論文標題 大阪湾臨海部における市岡土地株式会社による経営地の形成について	5．発行年 2023年
3．雑誌名 日本建築学会近畿支部研究報告集．計画系	6．最初と最後の頁 437-440
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 原口 拓也,中江 研,堀内 啓佑	4．巻 63
2．論文標題 田村剛と上原敬二の造園理論における実用と美の理解について	5．発行年 2023年
3．雑誌名 日本建築学会近畿支部研究報告集．計画系	6．最初と最後の頁 417-420
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 宮本 美咲輝,中江 研,堀内 啓佑	4．巻 63
2．論文標題 日本における公園墓地計画へのドイツの公園墓地の影響	5．発行年 2023年
3．雑誌名 日本建築学会近畿支部研究報告集．計画系	6．最初と最後の頁 309-312
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤原 美菜子,中江 研,山本 一貴,堀内 啓佑	4．巻 63
2．論文標題 『セセッション圖案集 室内之部』の基本的書誌情報について 『セセッション圖案集』に関する研究―その3	5．発行年 2023年
3．雑誌名 日本建築学会近畿支部研究報告集．計画系	6．最初と最後の頁 281-284
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中江 研,山本 一貴	4．巻 2022
2．論文標題 山田守著『ジードルンク』に掲載される「表」の典拠について その2： 「国際住居会議」の報告書との比較を中心に	5．発行年 2022年
3．雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集・建築デザイン発表梗概集(CD-ROM)	6．最初と最後の頁 715-716
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 山本 一貴,中江 研	4．巻 2022
2．論文標題 山田守著『ジードルンク』に掲載される「表」の典拠について その1： 「国際新建築会議」の報告書との比較を中心に	5．発行年 2022年
3．雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集・建築デザイン発表梗概集(CD-ROM)	6．最初と最後の頁 713-714
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 山本 一貴,中江 研	4．巻 62
2．論文標題 山田守著『ジードルンク』に掲載される「図表」及び「図」の典拠について	5．発行年 2022年
3．雑誌名 日本建築学会近畿支部研究報告集 計画系	6．最初と最後の頁 543-546
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤原 美菜子,中江 研	4．巻 62
2．論文標題 洪洋社刊『世界建築 様式図解』の書誌情報および掲載図版の特定について ―「セセッション」集に着目して―	5．発行年 2022年
3．雑誌名 日本建築学会近畿支部研究報告集 計画系	6．最初と最後の頁 433-436
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 岡村 知晃,中江 研,堀内 啓佑	4．巻 62
2．論文標題 戦後復興期における競輪場の立地要因に関する研究 ― 公園の潰廃との関係性に着目して ―	5．発行年 2022年
3．雑誌名 日本建築学会近畿支部研究報告集 計画系	6．最初と最後の頁 389-392
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 ―

1．著者名 Horiuchi Keisuke, Nakae Ken	4．巻 4
2．論文標題 Progress in housing policy research activity in Dojunkai: A study on the discussion and research in the process of establishing housing policy during World War II (2)	5．発行年 2021年
3．雑誌名 JAPAN ARCHITECTURAL REVIEW	6．最初と最後の頁 469～481
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/2475-8876.12226	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 ―

1．著者名 Horiuchi Keisuke, Nakae Ken	4．巻 5
2．論文標題 Development of discussions on national housing statistics surveys in Japan	5．発行年 2021年
3．雑誌名 JAPAN ARCHITECTURAL REVIEW	6．最初と最後の頁 64～76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/2475-8876.12252	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 ―

1．著者名 山本 一貴，中江 研	4．巻 61
2．論文標題 山田守著『ジードルンク』に「参考書」として掲載される雑誌等について	5．発行年 2021年
3．雑誌名 日本建築学会近畿支部研究報告集．計画系	6．最初と最後の頁 541-544
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 ―

１．著者名 泉 亮太郎，堀内 啓佑，中江 研	４．巻 61
２．論文標題 水道事業関連の建築物および土木施設図面一覧－神戸市水道局奥平野浄水場の所蔵図面調査 その１－	５．発行年 2021年
３．雑誌名 日本建築学会近畿支部研究報告集．計画系	６．最初と最後の頁 525-528
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 堀内 啓佑，泉 亮太郎，中江 研	４．巻 61
２．論文標題 神戸市の水道喞筒室群について－神戸市水道局奥平野浄水場の所蔵図面調査 その２－	５．発行年 2021年
３．雑誌名 日本建築学会近畿支部研究報告集．計画系	６．最初と最後の頁 529-532
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 宮本 美咲輝，秋田 湧大，中江 研，山本 一貴	４．巻 61
２．論文標題 『セセッション圖案集 外観之部』掲載作品の特定とその作品情報について －『セセッション圖案集 外観之部』の掲載作品に関する研究 その１－	５．発行年 2021年
３．雑誌名 日本建築学会近畿支部研究報告集．計画系	６．最初と最後の頁 513-516
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 秋田 湧大，中江 研，山本 一貴	４．巻 61
２．論文標題 『セセッション圖案集 外観之部』掲載図版の原出典について －『セセッション圖案集 外観之部』の掲載作品に関する研究 その２－	５．発行年 2021年
３．雑誌名 日本建築学会近畿支部研究報告集．計画系	６．最初と最後の頁 517-520
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 堀内啓佑，中江研	4．巻 85
2．論文標題 日本における国家的住宅統計調査の実現に向けた議論の展開	5．発行年 2020年
3．雑誌名 日本建築学会計画系論文集	6．最初と最後の頁 2233～2243
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3130/aija.85.2233	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Horiuchi Keisuke、Nakae Ken	4．巻 4
2．論文標題 Effect of Housing Act drafting activity on the formulation process of the “Report of the Housing Measures Committee”: A study on the discussion and research in the process of establishing housing policy during World War II (1)	5．発行年 2020年
3．雑誌名 JAPAN ARCHITECTURAL REVIEW	6．最初と最後の頁 144～154
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/2475-8876.12196	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 堀内 啓佑，羽山 華望，中江 研，山本 一貴	4．巻 60
2．論文標題 dezamの組織と活動の概要について 京都帝国大学建築学生団体dezamの活動に関する研究 その1	5．発行年 2020年
3．雑誌名 日本建築学会近畿支部研究報告集．計画系	6．最初と最後の頁 545-548
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 羽山 華望，中江 研，堀内 啓佑，山本 一貴	4．巻 60
2．論文標題 dezamによる文献研究・集団的活動・雑誌制作について 京都帝国大学建築学生団体dezamの活動に関する研究 その2	5．発行年 2020年
3．雑誌名 日本建築学会近畿支部研究報告集．計画系	6．最初と最後の頁 549-552
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 塩谷 沙織，中江 研，山本 一貴	4．巻 60
2．論文標題 英国建築協会AAによる1922年のオランダ建築視察旅行について	5．発行年 2020年
3．雑誌名 日本建築学会近畿支部研究報告集．計画系	6．最初と最後の頁 565-568
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 秋田 湧大，穴井 万智，中江 研，山本 一貴，塩谷 沙織	4．巻 60
2．論文標題 武田五一、岡田信一郎の「セセッション」への言及について ー大正期の日本の建築界における「セセッション」の理解に関する研究 その1ー	5．発行年 2020年
3．雑誌名 日本建築学会近畿支部研究報告集．計画系	6．最初と最後の頁 533-536
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 穴井 万智，秋田 湧大，中江 研，山本 一貴，塩谷 沙織	4．巻 60
2．論文標題 日本趣味および日本に移入された「セセッション」への言及について ー大正期の日本の建築界における「セセッション」の理解に関する研究 その2ー	5．発行年 2020年
3．雑誌名 日本建築学会近畿支部研究報告集．計画系	6．最初と最後の頁 537-540
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 大脇 春，中江 研	4．巻 60
2．論文標題 近代の神戸市須磨における住宅地形成に関する研究	5．発行年 2020年
3．雑誌名 日本建築学会近畿支部研究報告集．計画系	6．最初と最後の頁 581-584
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 吉澤 賢，堀内 啓佑，中江 研	4．巻 60
2．論文標題 イタリアにおけるアルベルゴ・ディフーゾに関する法制度とその運用に関する研究	5．発行年 2020年
3．雑誌名 日本建築学会近畿支部研究報告集．計画系	6．最初と最後の頁 593-596
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 堀内 啓佑，中江 研	4．巻 2020年度
2．論文標題 日本における不良住宅地区の質的評価方法の確立の過程	5．発行年 2020年
3．雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集 建築歴史・意匠	6．最初と最後の頁 179-180
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 塩谷 沙織，山本 一貴，中江 研	4．巻 2020年度
2．論文標題 近代オランダ建築の図版資料に関するHoward Robertsonの情報収集について	5．発行年 2020年
3．雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集 建築歴史・意匠	6．最初と最後の頁 423-424
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 堀内 啓佑，中江 研	4．巻 84
2．論文標題 同潤会における住宅政策に関する調査活動の進展 －戦時下住宅政策成立過程における議論と調査活動に関する史的研究(2)－	5．発行年 2019年
3．雑誌名 日本建築学会計画系論文集	6．最初と最後の頁 965-975
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3130/aija.84.965	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計21件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 宮本 美咲輝，秋田 湧大，中江 研，山本 一貴
２．発表標題 『セセッション圖案集 外観之部』掲載作品の特定とその作品情報について －『セセッション圖案集 外観之部』の掲載作品に関する研究 その１－
３．学会等名 日本建築学会近畿支部研究発表会
４．発表年 2021年

１．発表者名 秋田 湧大，中江 研，山本 一貴
２．発表標題 『セセッション圖案集 外観之部』掲載図版の原出典について －『セセッション圖案集 外観之部』の掲載作品に関する研究 その２－
３．学会等名 日本建築学会近畿支部研究発表会
４．発表年 2021年

１．発表者名 泉 亮太郎，堀内 啓佑，中江 研
２．発表標題 水道事業関連の建築物および土木施設図面一覧－神戸市水道局奥平野浄水場の所蔵図面調査 その１－
３．学会等名 日本建築学会近畿支部研究発表会
４．発表年 2021年

１．発表者名 堀内 啓佑，泉 亮太郎，中江 研
２．発表標題 神戸市の水道喞筒室群について－神戸市水道局奥平野浄水場の所蔵図面調査 その２－
３．学会等名 日本建築学会近畿支部研究発表会
４．発表年 2021年

１．発表者名 山本 一貴，中江 研
２．発表標題 山田守著『ジードルンク』に「参考書」として掲載される雑誌等について
３．学会等名 日本建築学会近畿支部研究発表会
４．発表年 2021年

１．発表者名 秋田 湧大，穴井 万智，中江 研，山本 一貴，塩谷 沙織
２．発表標題 武田五一、岡田信一郎の「セセッション」への言及について ー大正期の日本の建築界における「セセッション」の理解に関する研究 その1ー
３．学会等名 日本建築学会近畿支部研究発表会
４．発表年 2020年

１．発表者名 穴井 万智，秋田 湧大，中江 研，山本 一貴，塩谷 沙織
２．発表標題 日本趣味および日本に移入された「セセッション」への言及について ー大正期の日本の建築界における「セセッション」の理解に関する研究 その2ー
３．学会等名 日本建築学会近畿支部研究発表会
４．発表年 2020年

１．発表者名 堀内 啓佑，羽山 華望，中江 研，山本 一貴
２．発表標題 dezamの組織と活動の概要について 京都帝国大学建築学生団体dezamの活動に関する研究 その1
３．学会等名 日本建築学会近畿支部研究発表会
４．発表年 2020年

１．発表者名 羽山 華望，中江 研，堀内 啓佑，山本 一貴
２．発表標題 dezamによる文献研究・集団的活動・雑誌制作について 京都帝国大学建築学生団体dezamの活動に関する研究 その2
３．学会等名 日本建築学会近畿支部研究発表会
４．発表年 2020年

１．発表者名 大脇 春，中江 研
２．発表標題 近代の神戸市須磨における住宅地形成に関する研究
３．学会等名 日本建築学会近畿支部研究発表会
４．発表年 2020年

１．発表者名 塩谷 沙織，中江 研，山本 一貴
２．発表標題 英国建築協会AAによる1922年のオランダ建築視察旅行について
３．学会等名 日本建築学会近畿支部研究発表会
４．発表年 2020年

１．発表者名 吉澤 賢，堀内 啓佑，中江 研
２．発表標題 イタリアにおけるアルベルゴ・ディフーゾに関する法制度とその運用に関する研究
３．学会等名 日本建築学会近畿支部研究発表会
４．発表年 2020年

１．発表者名 堀内 啓佑，中江 研
２．発表標題 日本における不良住宅地区の質的評価方法の確立の過程
３．学会等名 日本建築学会大会学術講演会
４．発表年 2020年

１．発表者名 塩谷 沙織，山本 一貴，中江 研
２．発表標題 近代オランダ建築の図版資料に関するHoward Robertsonの情報収集について
３．学会等名 日本建築学会大会学術講演会
４．発表年 2020年

１．発表者名 菅原 美咲，中江 研，山本 一貴
２．発表標題 セセッション圖案集 室内之部』各版の掲載内容について 『セセッション圖案集』に関する研究－その１－
３．学会等名 日本建築学会近畿支部研究発表会
４．発表年 2019年

１．発表者名 穴井 万智，菅原 美咲，中江 研，山本 一貴
２．発表標題 『セセッション圖案集 外観之部』各版の掲載内容について『セセッション圖案集』に関する研究－その２－
３．学会等名 日本建築学会近畿支部研究発表会
４．発表年 2019年

１．発表者名 塩谷 沙織，中江 研，山本 一貴
２．発表標題 近代オランダ建築に関する日本の建築系雑誌での最初期の紹介におけるRobertson の論考への依拠とその解釈
３．学会等名 日本建築学会近畿支部研究発表会
４．発表年 2019年

１．発表者名 堀内 啓佑，中江 研
２．発表標題 「住宅行政機構の整備拡充に関する建議」により目指された行政機構の具体像
３．学会等名 日本建築学会近畿支部研究発表会
４．発表年 2019年

１．発表者名 堀内 啓佑，中江 研
２．発表標題 住居法の立案が目指された経緯に関する研究 中村寛の経歴に着目して
３．学会等名 日本建築学会大会学術講演会
４．発表年 2019年

１．発表者名 塩谷 沙織，山本 一貴，中江 研
２．発表標題 近代オランダ建築に関する今井兼次の紹介におけるRobertsonの論考への依拠とその解釈 その1 一致点について
３．学会等名 日本建築学会大会学術講演会
４．発表年 2019年

１．発表者名 山本 一貴，塩谷 沙織，中江 研
２．発表標題 近代オランダ建築に関する今井兼次の紹介におけるRobertsonの論考への依拠とその解釈 その2 相違点について
３．学会等名 日本建築学会大会学術講演会
４．発表年 2019年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	角　哲 (Kaku Satoru) (90455105)	名古屋市立大学・大学院芸術工学研究科・准教授 (23903)	
研究分担者	山本　一貴 (Yamamoto Kazuki) (90533977)	福山大学・工学部・講師 (35409)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関